

第4学年「てつがく」学習指導案

授業者 久下谷 明

2月16日(木) 3階A室 9:00~9:40

- 1 単元名 自分の生活を見つめて
- 2 考える価値内容 自己・感情/他者・社会
- 3 単元について

これまで、朝のサークル対話の話題や子どもの疑問をもとに、「てつがく」の授業を進めてきた。

1学期~2学期前半は、『ゆめの世界とは?』、『死ぬとは?』、『生まれる前はどこにいたの?』といったテーマについて考えた。2学期後半~は、『友達とは?』というテーマで対話を重ねた。「自分はどんな友達でいたいかな」と考えていた際、ある子が「嫌われないような友達でいたい。」と語った。共感する子が多い中、別の子が「嫌われてもいいんじゃないかな。それに、私は友達に嫌いと言ったことがある。」と。「えっ…」、子どもたちは揺れ動く。そこから、『嫌いと言っていいの?』と問いが変わり、「言って欲しいけど、自分は言えない(言わない)」のように、対話を通して自分の内面を見つめていくことが行われた。これまでの授業を振り返ると、自分の置かれた世界に関わる問いから、自分の内面に向かう問いへと、問いが変化してきたことに気づく。さらに本単元の前には、『嫌いとは?』と考えることを通し、多くの子が関心を寄せている、『感情』や『(自分の)気持ち』について考えていければと思うている。

このような流れの中に本単元が位置づく。本単元では、自分の生活(自分)を見つめて真剣に考えた3学期の目標をもとに、そこに書かれた言葉の意味を問うことから“てつがくすること”を始めたい。例えば、“強い心を持ち”や“自分を強く”と目標に書いている子がいる。「つよさ(強さ)」という言葉はよく使われるが、そもそも『つよさ』とは何だろうか。この問いは、私自身、事あるごとに自問し、考えてきた言葉の一つである。しかし、確固たる答えは未だに見つかっていない。

目の前の子どもたちとは、クラス替えがありつつも、2年生の時から一緒に過ごしてきた。成長とともに、当然色々なことがあるが、変わらず素直で心優しい子どもたちである。その子どもたちがもうすぐ高学年となる。これから先、他者や社会との関係の中で自分を見つめ、悩み、揺れ動くことが増えるに違いない。だからこそ、『つよさ』とは?』と問い、それぞれが思う『つよさ』の違いを感じ、自分を見つめながら、対話を通して、皆(教師も子どもも)で『つよさ』について考えていければと思う。

本時は、学習活動の3時間目にあたる。対話を通して新たな問いが生まれ、問いが変化していくこともある。その問いの変化や子どもたちの気持ちや思いに寄り添いながら、丁寧に対話を進めていきたい。

4 学習活動計画(3時間目/全5時間)

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・目標から自分の生活を見つめつつ、目標に書かれた言葉の意味について考える ・自分の経験をもとに、『つよさ』(『よわさ』)について考え、それを共有する | <ul style="list-style-type: none"> ・『つよさ』についてこれまでの対話から生まれた問いについて対話を通して考える …(本時) ・『つよさ』についてさらに対話を通して考える ・これまでの授業を振り返り、自己評価を行う |
|---|---|

5 本時の学習について

(1) 本時のねらい

『つよさ』って何?』と問いながら、対話を通して『つよさ』について考えていくことができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルの形になって対話をする。 ・本時では、マイクをコミュニティボールの代わりとする。 ・速いテンポにならないように対話を進める。 ・聴くことを意識しながら対話に参加する。
2 これまでの対話から生まれた問いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、以下のことを行う。 ・言葉を問い返すことにより、その意味を明確化する。 ・思いや根拠を問う。 / 対話してきた内容の整理や確認を行う。
3 本時をふり返り、さらに自分で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・1人で考える時間も大切に。